

＜ もくじ ＞	
1. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会開催のお知らせ	1
2. 第9回研究会合同イベント概要報告	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	4
5. 事務局からのお知らせとお願い	5

1. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会開催のお知らせ

2025年の総会と創立25周年記念大会は、6月7日に市川の千葉商科大学で開催されます。大会シンポジウムのテーマは、「いま、なぜシニアの社会参加なのか」です。シニア社会学会創設の狙いは、シニアが社会のお荷物になることなく、可能な限り社会の支え手として役割を果たすよう、社会に参加し参画することでした。シニアが社会参加することは個人の生きがいや健康維持につながるだけでなく、アクティブシニアが増えることで経済社会や地域を活性化させ、ひいては社会保障への支出を減らすことも可能でしょう。本大会が「シニアの社会参加の意義と意味」を考察する機会となることを願っております。シンポジウムと懇親交流会はどなたでも参加いただけます。

- 1) 開催日時：2025年6月7日（土）
- 2) 時間：総会11：00～12：00 大会13：00～16：40
- 3) 会場：千葉商科大学市川キャンパス7号館702教室（大会はオンライン併用）

≪第1部≫一般社団法人シニア社会学会総会（会員のみ）

- 2025年定時総会 11：00～12：00

≪第2部≫一般社団法人シニア社会学会創立25周年記念大会 13：00～16：40

- 大会テーマ「いま、なぜシニアの社会参加なのか」

1. 基調講演：藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

☆講演タイトル：「シニアが拓く『三方良し』の地域づくり」

2. パネルディスカッション

司会：袖井孝子（当学会会長）

パネリスト：

- ★ 池口武志「シニアが働き続けることの個人的社会的効果」
（当会理事、一般社団法人定年後研究所所長）
- ★ 野中孝泰「シニアにとっての社会参加の可能性と意義」
（当会副会長、特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長）
- ★ 清水肇子「シニアの社会参加が地域社会にもたらすもの」
（公益財団法人さわやか福祉財団理事長）

コメンテーター：藤原佳典

- 懇親交流会：17：00～18：30 千葉商科大学市川キャンパス The University DINING
- 大会参加費：1,000円（申込は6月4日まで 支払いはPeatix、振込、当日会場）学生無料
- 懇親交流会：4,000円（申込は5月24日まで、支払いは当日会場で）

- ※ 総会・大会会場は、市川駅から徒歩20分またはバス。京成本線国府台駅から徒歩10分
- ※ 申し込み方法、参加費・懇親会費支払い方法の詳細はプログラムに記述して、案内地図とともにメールで会員に送付（一部の会員には郵送）いたします。また、ホームページでもお知らせします。

2. 第9回研究会合同イベント概要報告 「社会保障」研究会主催 「ものがたりとしての認知症ケア～ナラティブ・アプローチ～」

本年度最後のイベントとなる第9回研究会合同イベントは、社会保障研究会主催で、ナラティブ・アプローチをテーマに、困難を抱える人への支援の問題をとりあげました。当日は、対面形式のみの実施で30名（会員27名、非会員3名）の参加がありました。

- 1) 日 時：2025年3月22日（土）14：00～16：00
- 2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェア
- 3) テーマ：「ものがたりとしての認知症ケア ～ナラティブ・アプローチ～」
- 4) プログラム：総司会：森やす子（当学会理事）
 - 基調講演：荒井浩道（当学会理事、駒澤大学教授、曹洞宗泉龍寺住職）
 - パネルディスカッション：司会：袖井孝子（当学会会長）
 パネリスト：下村達郎（香念寺住職）※寺院での介護者カフェ運営
 上野美知子（Coもれび主宰）※ケアラー支援として都会で森林浴



会場の様子



袖井会長による開会挨拶

・基調講演：荒井浩道 「ものがたりとしての認知症ケア～ナラティブ・アプローチ～」

現在の長寿社会においては、個人が認知症になる確率は高く、家族介護という視点を含めると、すべての人が当事者であり、誰も認知症を避けて通れない時代となりました。認知症の介護は一筋縄ではいかない問題ばかりです。認知症者とのコミュニケーションは、「無知の姿勢」の視点が大切です。専門性とは、専門家のためにある鎧のようなものだから、鎧を脱ぎ不確実性に耐えながら会話を続けることが必要です。そして、正しさは、時に人を傷つける危険性があることを認識しておきたい。支援やケアは上から目線になりがちですので、支援をするのではなくて、相手の心に80%の余白を残したまま、徹底的に寄り添うことが重要です。

・パネルディスカッション：「現場に活かすソーシャルワーク ～実践例の紹介から」

下村達郎 「寺院で開く語り合いの機会 ～介護者カフェ活動～」

私が住職を務める香念寺では、介護についての経験や思いを中心に語り合う「介護者の心のやすらぎカフェ（通称：介護者カフェ）」を定期的に行っています。介護生活における悩みを抱え込み、孤立したり思いつめたりする方が生まれないよう、時々でも外の人とお話できる機会を設けるのが開催の目的です。会においては ①自分のことを話せる場所であること ②否定せず「聴く姿勢」がルールを2点をコンセプトとしています。参加者は10～15名程度で、住職の私が毎回同席して司会進行を努めています。また、こうした取り組みは浄土宗の研究会を通して、現在全国30か所で展開しています。

上野美知子 「森林浴を用いた介護者・認知症当事者への支援への可能性について」

介護者支援の活動を行っていたCoもれびはコロナ禍、それまで屋内で行っていたケアラーズカフェの開催を中止せざるを得ない状況となり、そのことで人と関わるのが長期間制限され疲弊したご

本人と家族介護者へのケアの必要性を強く感じるようになりました。そこで感染リスクの低い野外での活動「練馬のみどりで森林浴」を始めました。その科学的効果も実証実験で確認されています。森林浴は自然の中での五感を使った過ごし方を提案し、導くトレーナーと一緒にすることでより効果が得られると考え、「ねりま森林浴トレーナー」の育成も行い練馬で森林浴が行える活動を進めています。

終了後のアンケートから、いくつかのご意見をご紹介します。

- 自分にあまり関係が無いと思って参加したが、自分ごとであることを痛感した。介護者が紡ぐナラティブ（語られる困難）にいかにか寄り添い会話を続ける（聴く）かは、あらゆる対話に通じる本質と感じました。（50歳代男性）
- 介護の経験は全く無いので、事例や考え方など何もかも新鮮で衝撃的でした。頭で考えるのと、現場（介護者）の声とは全然違うことを痛感。（70歳代女性）
- 「よろいを脱いで」という言葉が印象に残りました。（70歳代女性）
- 私自身、今、妻の介護で少し苦労しているので参考になった。自分で余裕をもつ必要。知人にも悩みを語ることで救われる事あります。（80歳以上男性）
- 森林浴をしながらも気持ちや発見を話すので、それ自体もナラティブ・アプローチなのではないかと思えます。五感を生かせば生かすほどよいことがありそうだと思います。（50歳代女性）
- 森林浴は気持の切り換えに効果があることは多少知っていましたが、思っていた以上に多くの心身への影響が大きいことを知りました。（70歳代女性）
- お寺が説教するのではなく、困難を抱える人々が自分の事を語れる場所、人と人をつなぐ場所として使命を果たされていることに感銘を受けた。（50歳代男性）
- 寺院で積極的に人々に関わろうとしていることが心強い。森林浴は以前から関心がありました。一度機会があれば参加したい。（70歳代女性）

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第105回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年4月21日（月） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：「恥の文化」と地域コミュニティ～その隠居学的考察～
発表者：佐藤 敬
- 4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(2) 第169回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年4月23日（水） 18：00～20：00
- 2) 報告者：魚住明代（城西国際大学教授）
- 3) テーマ「地域における居場所づくり～ドイツ連邦プログラムの取り組み～」(仮)
- 4) オンラインで開催いたします。

※ 参加を希望される方は、阿部（fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp）にご連絡ください。
資料をお送りいたします。

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(3) 第55回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年4月26日（土） 18：30～20：30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員
- 4) テーマ：人形劇の在り方

びしょうざ
劇団 「B笑座」

認知症を可視化し、わかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。
※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願い致します。

(4) 第61回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年4月30日(水) 17:30~19:30
 - 2) テーマ：2025年5月~2026年3月までのテーマを出し合って、担当を決める。
- ※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第53回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年2月22日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第一グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員 (YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる (鈴木眞澄 記)

(2) 第54回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年3月22日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員 (YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：3月18日イベントの反省 (鈴木眞澄 記)

(3) 第104回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2025年3月13日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：「困っていても手を挙げず、申し出ない人への対応
~あざみ野団地の『包括レベル地域ケア会議』結果を基に考察~」

発表者：安田 和紘

安田さんは長年お住まいのあざみ野団地での実感をベースに、シニアの社会参加の問題点を7点にまとめ語られた。1.「困っていても手を挙げず、申し出ない人がいる」こと理由。2.「悩み・困った」の多くはフレイルから始まること。3. どの様な「困った」に陥るかーあざみ野団地「お助け会」の事例をリストアップ 4. 「悩みや困った」の要因は何か。団地内の多様な機会を得た情報を、安田さん個人の見解で整理。5. 手を挙げない、申し出をためらう理由は何かについて13点を列記。特に4つの要因(自分の問題、周囲の反応、事柄・内容の問題、先が見通せないこと)が絡まっていること。6. 背後にある社会的要因として、日本人の価値観としての「恥の文化」など5点を列記。そして根底にあるのが個人情報保護法の壁。無関心、知らぬフリが正当化されると指摘。7. 解決の方向性として、無関心層を巻き込む方法「ソーシャルチェンジ」の実践など9点を列記。最後に、リーダーとなる世話役の発掘が大切であること。そして、手を挙げやすい条件を整理することが大切であると述べられた。

濱口座長は、討議は無関心層への対応が焦点になっていた。ひと昔前なら、こうした問題は疎外論として論じられたであろう。いずれ再考してみたい。そして研究会終了後の感想として、疎外論同様アノミー論についても言えるだろう。アノミーという言葉は、デュルケムが『自殺論』で自殺の3類型を作り、3つの類型のひとつとして無規制的自殺の類型を作り問題提起して以来、社会的規範が有効性を欠いた状態であることをアノミーという言葉を使って問題にするようになった。社会が高齢化し、そのことに起因して困難を抱えた人々の存在をめぐる諸問題の中でも個別化が目立つようになって来た。アノミー化の問題点である。という様に、こうした視点からの問題整理をして、その有効性を検証してみたい。とコメントされた。

(島村健次郎 記)

(4) 第60回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日時：2025年3月28日（金） 17：30～19：30 Zoom 開催
- 2) 報告者：松島悦子 当学会理事 研究会メンバー
- 3) テーマ：リスク認知と健康食品 ～機能性表示食品に注目して～

2024年3月、紅麹サプリメントによる腎疾患などの健康被害が公表され、回収命令が下された。「悪玉コレステロールを下げる」といった医薬品まがいの表示で小林製薬より販売された機能性表示食品である。3月23日現在、入院559人を含む医療機関受診者2,718人、調査対象死者137人という痛ましい事件となった。原因は製造過程で混入した青かびによる産生物質であった。

わが国では、健康食品という言葉に法的な定義はない。健康や栄養に関する表示が法的に認められるのは、特定保健用食品（トクホ）、栄養機能食品、機能性表示食品の3つで、その他の健康に役立つと謳う食品は十分な科学的根拠が確認されておらず、健康への効果の表示・広告は禁じられている。これらは合わせて、いわゆる「健康食品」と呼ばれ、その市場規模は2024年1兆2千億円を超えると推計される。医薬品様の効果を期待して、今や国民の半数が利用している。この背景には、健康志向やアンチエイジング、ダイエットへの関心の高さがある。

1991年創設のトクホは、国が個別審査し表示を許可する制度で、食品安全委員会による健康影響評価がなされ、開発に億単位の費用と時間を要する。そこで、2015年当時の安倍首相が進めていた規制緩和による経済成長戦略の一つとして機能性表示食品制度が新設された。企業自らが安全性や機能性を評価し、届け出れば企業責任で効果を表示できる。臨床試験データは不要で、販売実績や文献等でも許可される。トクホを却下された製品でも許可される。市場規模は2024年で7千億円超と拡大する。その半分以上を占めるサプリメントは、成分濃縮された医薬品形状で、毎日の摂取により過剰摂取に繋がりがやすい。有害物の混入があれば極めて危険。

機能性表示食品への不安が高まり、健康被害情報の速やかな報告とサプリメント製造工場でのGMPによる製造管理の義務化、表示の適正化などの改正が行われた。しかし、安全性と効果の評価は企業任せであることに変わりはない。消費者自身が食のリテラシーを高め、声を上げていく必要がある。
(松島悦子 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

< 会員情報変更時のご連絡のお願い >

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

< 2025年5月 JAAS News の発行日 >

次回JAAS News 第309号の発行日は、2025年5月21日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、5月16日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>